

R2.10.8 第2回推進委員会会議における発言要旨

1. まちの状況や今後の基本的方向に関する意見等

- 介護・福祉分野では、平成28年から2泊3日で本別を体験いただく集まりを行っている。本別に新卒で就業された方はここ5年でも既に10名以上あり、旧南保育所を宿泊できる研修施設への改修など、目に見える成果・実績がでている。
- 5年前から変わったことでは、商工会青年部としては豆まかナイトを始めたこと。ポイントカードシステムが変わったり、いきいき商品券が大量に配られるようになったり、商工業的にはそういう変化があった。
今でいえば、会員も外部から引っ越してきた人が青年部に入っている状況で近年はUターン者などで増えてきている。青年部としては、外部へのアピールを目標にメディア映えするイベント、メディアが取材したがるようなものを作りたい想いで開催している。
- 4年前に本別に来て、それまで1・2回しか来たことが無かったが、来てみるとイベント事がたくさんあり、活気のある町と思った印象。帯広に住んでいて本別でこれだけイベントがあることを知らなかった。ほかの町にもどんどんアピールしていけば人は来てくれると思う。
- 本別に来てすぐに豆まかナイトがあり、ポスターも斬新。本別では、こんなお祭りをやっているという最初の本別の印象。外から来た人にアピールするイベントがあることは、イメージアップに繋がる手段と思う。
- 昨年より本別に来たが、まわりの家がどんどん壊されていくイメージがある。通勤・買い物等の生活する分には特に問題はないが、お風呂屋さんが無くなっていくなどの悲しい出来事が多くなってきている。
- 昨年赴任し1年半が経った。本別に来てみて6月後半から8月までお祭り事が毎週あり活気がある町。生活するには問題ないし、公宅に住んでいるので、全く変化がないという感じ。
- 現在、高校生がまちの課題解決に向けた探究授業を行っており、イベントに関しては、生徒にとっては人が全然集まっていないという印象で調査を始めた。調べていくとこんなに多くの人に来ていて驚いていたが、生徒たちはそれを実際の肌では感じていない状況で、もしかしたら一般の方も直接肌では感じれていないのかもしれない。実際に本別公園に行き観光客に話を聞いたり、アンケートを取ったり、まちの活性化のために高校生世代で考えている。

- 高校までは本別で生活。一旦町外で仕事をしていて今は実家に。実際にイベントを開催している側での参加も多く色々出ている。肉祭りに関しては、町内に方というよりは、ほぼ札幌圏・釧路圏のリピーターが多い。道の駅は高速道路が繋がり釧路の方のファン層が多く、釧路ナンバーが多い。リピーターが多いと感じる。
- まち中に出てくる機会も少なく、買い物程度で出るが人がスーパーは人が集まっている感じ。以前、十勝にいたこともあり、その頃より人が少なくなり、お店が減ったという印象は感じる。
- 農大生は120～130人くらいいるが、5年位前からみると本州の学生が増えている。そのほとんどが非農家で、こちらに来てどこかに就職を考えていて、昨年も町内に数名就職となっている。農業関係では近郊、道内に就職される学生も増えてきていて、定着してきていると感じているが、本別町内というともう少し働き口があれば良いと思う。
- 家族の関係で本別へ通勤しているが、朝の通勤時間帯は利別のインターから先が見えないくらい車が行列で続いていて通勤されている方が多い印象。職業柄かもしれないが、窓口に来られる方も含め、外国人の方が多い印象。
- キャンプ場を昨年初めて利用し大変良かった。アウトドア好きの友人に施設が充実し子どもも遊べる本別が良い、と伝えても誰も知らないようで、SNS等での発信ももっと行っていけば良いと感じている。
- 平成3年に本別に新規就農。当時は個人で就農することがある程度可能であったが、今は規模化が進み個人では新規に就農することが困難になってきた。今は法人化が進んでおり、従業員という形で就農することが多くなっていくと思う。
- 本別に帰ってきて5年が経つが、自分の年代でも帰ってきたい人達が多い。やはり働くところが無いということが言われていて、札幌や帯広での就職が多い。札幌で働いている時に言われたのが、本別に来られた方がいて、本別公園は凄く良かったと言っていた。無料で子どもを連れてあそこまで遊べる場所はなかなか無いので、もっと有名になれば良いのにと言っていた。
- 帰ってきて思ったことは、マンション等が他の地域と比べて少し割高な印象。友達も本別ではなく隣町の住みやすいところに住む人もいる実状で、そこら辺の支援も少しあればもっと自分達も助かるのかなと思ったと思う。
- まち中を歩いていて、一番寂しいのは昔あった家のところに人がいなくなっていることで、家が無い部分をこれからどうしていけば良いのか。雇用の面では、もともと本別にある企業が元気になれば良いし、半分は外から誘致している企業とも連携を取りながらやっていけたらと思う。

○本別に来たのは20年前。自分が来たときはまだ後継者のことは考えていなかった。男の子いれば済むが、大きな農家ではなく、女の子しかいない家庭は、これから先はどうなるのか、不安が見えてくる時期。小さい農家では、成人ひとりを年間通じて雇用する力はない。結婚し旦那さんが農家をしてくれれば続けていけるが、それが出来ない場合は離農しなければならず、そういった農家が増えれば人口も減っていく。大きな農家は、今後も大きくなっていくだろうけども、女性の家系では跡取りの問題も出てくると思う。人の流れが町内だけではなく、農村に関しても人の流れができるようなアイデアがあれば良い。

○（質問）出生率が変わっていった場合、学年の人数がどう変化していくのか？

○（質問）目標は人口を増やすことなのか？ たくさんの資料があって、広い分野にわたり、この人数では受けきれないくらいの情報量である。関係する部分は理解しやすいが・・・。

⇒事務局

この5年間、様々な議論もあり、人口減少のどこに傷があって、どういう手立てをすれば、人口減少を抑えていけるのだろうとの議論は、これまでループする課題で委員の皆様から、ああいったこと、こういったことをしたら良いなど、それぞれの立場においてご意見をいただいて、役所の人間がまとめている。すべてのことを委員の皆様にご理解いただくことは、一番良いことかもしれないが、現実的には難しいと思っています。わからないこともあろうかと思いますが、まちの中では、この業界の方はこういう取組を行っているですとか、こういうことを想っているとか、それぞれの委員が、自分の立ち位置に戻った時にそういったことも踏まえてまちづくりに参画いただくなど、この会議がそういう場となってくれば良いと思っています。

先ほどの人口減少の話では、若い世代が少ないというのが、将来人口推計が低いひとつの要因。そのためにはどうしたらという議論を、ざっくばらんなご意見を含め、これまでいただいてきたところ。

○これまでこの会議では、そんなに堅苦しくなくやってきた。各テーマに沿い、各部門の方の想いや意見を聞き、回りの人からも意見を述べ合ったりしながら、それをきっかけに役場のほうの会議で意見を揉んで、今やるべきことや、実際にできること進めていて現在5年が経過したところ。

○実際にこの会議で何かを決めていくものではない。自分もこの会議に5年参加してきて、色々な資料を拝見して、わからないことのほうが多いし、他の業種の実情というのは、ここに来て初めてわかることもあれば、ほとんどイメージも湧かないこともたくさんある。その中で主観的な意見かもしれないが、問題提起や良くしたいことなど、忌憚のない意見をいただいたほうが、この会議の盛り上がりにつながると思っている。事務局から再度、この会議の趣旨の説明を。

⇒事務局

会議の位置づけについては、まず、最終的には、私どもが第2期の総合戦略というものを今年度策定することになるのですが、このように戦略に記載の一言一句まで委員の皆さんによろしいでしょうか、ということはお聞きしないと言いますか、できないと考えています。確認。普段の生活や問題点、アイデアなど色々な意見をお聞きしながら、どういったことが本別においてマッチングできるだろうか、当然、お金のなことありますし、役所がやること、民間がやること、団体等が行うこと、様々ある。そこにどうやって行政としてアプローチしていくかというところをまとめていくのが総合戦略となるので、委員の皆さんに人口問題や本町の現状、色々な人の現状もご認識いただいた中で、皆様からの意見をいただき、戦略に反映、網羅していきたいと考えています。

出生率の話では、本町の出生率が人口置換率（2.08）になったとしても10年後、20年後に100人も変わらない。出産できる方の算定数、母集団が少ないことから出生率をいくら上げてても将来人口に与える影響は少なく、それよりも転入転出の差を極力0に近づけるほうが人口減少に歯止めをかける効果としては大きいこととなります。

- 前委員会の会議で、ではどうするといった話で例えば、シングルマザーの働きやすい環境をつくり本別に住んでもらうといった意見や本別高校に入ってもらうにはどうしたら良いか、一旦は進学で外に出るけども戻って来る時に何かできないかなど、具体的な意見も出し合ったりしている。
- （疑義）外に出ても帰って来られないというのは、地元の仕事がないからなのか？どこでも人は足りないというイメージがあるのですが。
- 仕事が無いという意味では、仕事を選ぶと無い、ということで建設業では人は足りていなし、きつい汚いといった仕事は、今の世代では敬遠されている。今はインターネット関連の仕事が出てきていて、中学生段階からユーチューブをやっているとかで、なかなか力仕事だったり、農業的なことはやりたい子は少ないと思う。
- 地元で働きたい子も毎年一定数はいるが、仕事を選ばなければ決まるが、生徒が選ぶのは当然のこと。結果、帯広など管内くらいでの就職が多くなり、札幌にいきなり就職する子はほとんどいない。札幌に就職する子は専門学校や大学で一人暮らしを経験して就職という形になると思う。
- （質問）ユーチューバーになりたい生徒はいるのでしょうか？
⇒（委員）今の生徒は、ユーチューブは良く見ているようだが、ユーチューバーになりたい子は少ない。
- 生徒はまだそんなにICTに詳しくないが、コロナの影響で学校のICTが大き

進み、若干生徒たちも取り組み易くなってきている。教員もイメージが変わってきており、今は授業中に携帯を出しユーチューブを見ながら授業をしている。小中学校もこれからタブレットが配布されるが、10年後は教科書を持ち歩かないでタブレット1枚で良いかもしれない。

○学力を上げたい、学力の高い学校に行きたい、そして進学したい。きっとイメージでは学力の高い学校では頑張れるけども、学力のそうでない学校で頑張れる子は滅多にいない。将来インターネットが更に発展し、ICTを活用した授業が進み学校の仕組みが変わり、家で自分の学力や位置がわかれば学校に通わなくても、学力が維持できて進学できる状況になるかもしれない。

○(質問)札幌や東京に進学している子で夏休みとかは帰ってきたりしているようで⇒(委員)帰ってきている子達もいるが多くはないと思われる。進学率でいうと30%は大学進学、30%は専門学校への進学、30%は就職。

○進学している60%の心を掴むのが一番早くないでしょうか？夏休みに帰ってきて見る本別と高校の時に見ていた本別は違う感覚と思う。高校生の時の子ども視点でみると、外から目線での視点では全然違うと思うので、例えば、進学していった人に里帰りする時のネックが金銭的な理由であれば、その交通費を出してあげたら、違った目で見ってもらって、大学終わった時の判断に、地元帰るが追加される可能性があるのでは。見ず知らずの人にPRしていくよりも、そういう取組がPR力もあると思う。

○出身者をターゲットにしたほうが率は良いと思う。外から見るとふるさと、別な仕事をしていて地元に戻ってきた時の安心感みたいなものはあるのでは。年を重ねるほど感じるのかもしれないが。

⇒事務局

管外に就職した方も機会を見て節目節目に対象とすることもできるのでは。若い世代を増やしていくことに寄ったほうが将来的に人口減少を抑えられる訳で、全国的な取り合いなのかもしれないが、出生率を上げることも当然並行してやっっていかなければならないし、子どもを育てる環境づくりもやらなければならないけども、今、そのパイを1人でも2人でも増やすことによって、それが将来10人20人に変わっていくのかなと思います。

2. 事業検証・総括についての意見等

○評価の手法自体についてはルールに基づきされていることなので異論はないのですが、例えば2ページにあるように事業所数でいえば7割以上だから「B」評価と言われても傍から見たら良くわからない。事業所であれば、個人事業主が増えたのか、零細のところが残っているのか、力の強いところが残った結果なのか、わからない。そういった分析もしていかないと次のステップに進めないのでは。

⇒ (事務局) いただいた意見も踏まえ、次の目標なり、次のステップに繋げていかなければと考えている。

3. 会議の一般公開に関する意見等

- この会議は皆さんから忌憚のない意見をいただけるほうが会議の場としてはふさわしいのではと考えている。例えば言いにくいこともこの会議では種々あると思う。そういった時に果たして第三者の方がいる中で自由な意見が言えるかどうかの問題もあり、意見が減ることは本末転倒のことに思う。
- 多くの人に知ってもらうのは良いことですが、話せること話せないことあると思うので、そのとおりと思います。見に来るのであれば、こういう会議に意見を言う立場として出席すべきと思う。
- 一般公開となると、傍聴の方が会議を聞いて、こんなことやるんだよ、と尾ひれはひれがついても、何も規制的なことはできないのでしょうか？一般と言っている以上、守秘義務的なものはないのでしょうか。
⇒（事務局）内容に関しては、決まっていないことと言えば、委員の立場である以上、守秘義務は課せられると思うが、聞きに来られた方までは制限はかけられないと思われる。
- この会で言っていることが、ゆくゆく現実に向かっていくであろう話が現実として捉えられて、そういう尾ひれはひれがつくことは十二分にあると思う。一般公開されるのであれば、この会議の意向として、どうしてこの話をしていて、最終は何になるといった、ことを重々承知されている人達が見るのであれば公開しても良いと思うし、公開する会、しない会をつくるのもありでは。
- 会議の趣旨を理解されないまま、傍聴される方が誤解をし、例えば政策の決定事項のような捉えで、まちに広まってしまうと良くないし、そうなってしまうと、この会議で発言する皆さんのブレーキになってしまうこともあるだろうし、この会議は身近なところから遠いところまで色々な意見を上げてもらって、まとめていくのがこの会議だと思っている。
- 事務局としては、こうあるべきだろうということが前提なのでしょうか？
⇒（事務局）全ての会議にこういうことを聞いているのではなく、まちの重要な政策決定に関わるもの、まちの将来を決めていくような会議については、委員の皆さんにお聞きしながら協議を進めていく動きがあり、公開していくことが望ましいという考えはあるのですが、最終的には会議に出席いただいている皆さんの意見が判断のひとつと考えている。

⇒当面は現状のままで一般公開はしないということで委員確認